土曜
ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇

תהלים

No.34 (詩篇110篇) 2025. 9. 20

「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、
聖書を調べています。
その聖書は、わたしについて証ししているものです。
40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るために
わたしのもとに来ようとはしません。

※イェシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイェシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えてくるということです。
詩篇もそのように、預言的、奥義的、重層的に読んでいきたいと思います。
※詩篇は預言書です。詩篇の作者ダビデは、本体であるイェシュアを証ししています。
なぜなら、御子イェシュアはダビデの先取的存在だからです。

1．テキスト

【新改訳2017】詩篇110篇　　ダビデによる。賛歌。
1 主は　私の主に言われた。
「あなたは　わたしの右の座に着いていなさい。
　わたしがあなたの敵を　あなたの足台とするまで。」
2 主はあなたの力の杖を　シオンから伸ばされる。
「あなたの敵のただ中で治めよ」と。
3 あなたの民は　あなたの戦いの日に喜んで仕える。
聖なる威光をまとって　夜明け前から。
あなたの若さは朝露のようだ。
4 主は誓われた。思い直されることはない。
「あなたは　メルキゼデクの例に倣い　とこしえに祭司である。」
5 あなたの右におられる主は　御怒りの日に　王たちを打ち砕かれる。
6 国々をさばき　屍で満たし　広い地を治める首領を打ち砕かれる。
7 主は道の傍らで　流れから水を飲まれる。こうして　その頭を高く上げられる。

1. テキスト ②

【新改訳2017】詩篇110篇　　ダビデによる。賛歌。
1 主は　私の主に言われた。
　「あなたは　わたしの右の座に着いていなさい。
　　わたしがあなたの敵(複数)を　あなたの(両足の)足台とするまで。」
2 主はあなたの力の杖(マッテー/מַטֵּה=笏)を　シオンから伸ばされる。
　「あなたの敵(複数)のただ中で<u>治めよ</u>(＝支配せよ)」と。
3 あなたの民は　あなたの戦いの日に<u>喜んで仕える</u>(＝自発的に仕える)。
　聖なる威光をまとって　夜明け前から。
　あなたの若さは朝露のようだ。
4 主は誓われた。思い直されることはない。
　「あなたは　メルキゼデクの例に倣い　とこしえに祭司である。」
5 あなたの右におられる主は　御怒りの日に　王たちを打ち砕かれる。
6 国々をさばき　屍で満たし　広い地を治める首領を打ち砕かれる。
7 主は道の傍らで　流れから水を飲まれる。こうして　その頭を高く上げられる。

2. 人称の同定 ①

【新改訳2017】詩篇110篇　　ダビデによる。賛歌。

1 主(יהוה)は　私の主(אֲדֹנָי)に言われた。
「あなたは　わたしの右の座に着いていなさい。
わたしがあなたの敵を　あなたの足台とするまで。」

2 主(יהוה)はあなたの力の杖を　シオンから伸ばされる。
「あなたの敵(複数)のただ中で治めよ」と。

3 あなたの民は　あなたの戦いの日に喜んで仕える(原文は「自発的なささげ物」複数)。
聖なる威光をまとって　夜明け前から。あなたの若さは朝露のようだ。

4 主(יהוה)は誓われた。思い直されることはない。
「あなたは　メルキゼデクの例に倣い　とこしえに祭司である。」

5 あなたの右におられる主(אֲדֹנָי)は　御怒りの日に　王たちを打ち砕かれる。

6 国々をさばき　屍で満たし　広い地を治める首領を打ち砕かれる。

7 主(＝彼)は道の傍らで　流れから水を飲まれる。
こうして その頭を(彼は)高く上げられる。

「主」
「私」
「わたし」
「あなた」

2. 人称の同定 ②

●登場する人称を整理すると、以下のようになります。

①1節・・主(יהוה)は御父。「私」はダビデ。

主(אֲדֹנָי)は御子。

括弧の中の「わたし」は御父、「あなた」は御子。

②2節・・主は御父。「あなた」は御子。

③3節、４節・・「あなた」は御子。主は御父。

④5節・・「あなた」は御父。主は御子。

⑤6節、7節・・主は御子。

詩篇110篇の難しさは、
人称の同定にあります。

●1～4節は、<u>御父が御子に対して語り</u>、

●5～7節は、<u>ダビデが御子に対して賛美している</u>。

3. 詩篇110篇がメシア詩篇である理由 ①

●詩篇110篇は新約聖書に14回引用されていることと、それがいずれもイエシュア・メシアに当てはめられています。

【新改訳2017】マタイの福音書22章41～46節

41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった。
42 「あなたがたはキリストについてどう思いますか。彼はだれの子ですか。」
彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」
43 イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは御霊によってキリ
ストを主と呼び、44 『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右
の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで」』
と言っているのですか。
45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子
なのでしょう。」
46 するとだれ一人、一言もイエスに答えられなかった。
その日から、もうだれも、あえてイエスに質問しようとはしなかった。

3. 詩篇110篇がメシア詩篇である理由 ②

●イエシュアご自身が、詩篇110篇の作者をダビデの作であるとしていること。また、聖霊に導かれたダビデが、自分の子孫(子)を自分の主と呼んでいることです。

●この主は高く上げられた方です。つまり神の右の座に着座された、御子だということです。この方が、敵(複数)を自分の足台とするまで、祭司の務めをされるのです。

「アッターホーヘーン・レオーラーム」(אַתָּה־כֹהֵן לְעוֹלָם)
「あなたは永遠の祭司」

●5節「あなたの右におられる主(אֲדֹנָי)は　御怒りの日に　王たちを打ち砕かれる」は、メシアが王として再臨されることを表しています。

5. 神の右の座に引き上げられた御子

●「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ」(1節)の「着いていよ」は、「座る」という動詞「ヤーシャヴ」(יָשַׁב)の命令形「シェーヴ」(שֵׁב)です。
●ヘブル書1章3節では、御子は「罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました」とあります。「あなたの敵をあなたの足台とするまで」とは、御子が敵を足台とするのはメシアが地上に再臨する時ですから、それまでの期間となります。この詩篇がダビデによって預言されてからすでに三千年近くになります。御子イェシュアが神の右の座に引き上げられてからもすでに二千年が経過しています。御子イェシュアが神(御父)の右の座に着いてずっと、私たちを御子のかたちと似姿に造り変えるために、大祭司としてとりなしの働きをしておられるのです。

6. メシア王国を治める御子

●2節では「主は、あなたの力強い杖をシオンから伸ばされる。『あなたの敵の真ん中で治めよ。』」とあるように、御子は鉄の杖をもって千年の間、卓越した知恵と力をもって地上を治める王となります。「治める」という意味の「ラーダー」(רָדָה)の命令形「レデー」(רְדֵה)が使われています。初出箇所は創世記1章26節で、神が人に、地上にあるすべてのものを支配させようとした語彙です。

●3節では、王に喜んで従う民たちの存在がいます。彼らは「聖なる飾り物を着けて、夜明け前から喜んで仕える」のです。ここでの「聖なる飾り物」とは、朽ちないからだをもって、あるいは霊に満ちたからだということかもしれません。メシア王国においては、メシアなる御子はメルキゼデクの系列にありますから、メシアに従う者たちも永遠の「王である祭司」となることを示していると考えられます。

7. 国々の間をさばかれる御子

●4節と5節に「あなたの右にいます主は御怒りの日に、王たちを打ち砕かれる。主は国々の間をさばき、それらをしかばねで満たし、広い国を治めるかしらを打ち砕かれる」とあります。二度も「打ち砕かれる」(マーハツ:מָחַץ)が使われています。敵が二度と立てないように、御子は敵対する者たちを粉々に砕くことを意味します。

●神のご計画において、終わりの日には反キリストに従う諸国の軍勢がハルマゲドンに集結してから、エルサエムへと向かいます。その目的はイスラエルの民を全滅させるためですが、この危機的な状況において王なるメシアである御子がこの地上に再臨されることで、状況が逆転します。メシアが反キリストの軍勢を打ち砕かれるからです。

8. 7節の解釈 ①

●詩篇110篇7節をどう理解したら良いでしょうか。意味不明なことばが並んでいます。

主は道の傍らで　流れから水を飲まれる。
こうして　その頭を高く上げられる。

ローシュ　ヤーリーム　アル・ケーン　イシュテ　バッデレフ　ミンナハル

מִנַּחַל בַּדֶּרֶךְ יִשְׁתֶּה עַל־כֵּן יָרִים רֹאשׁ

頭を　(彼)は高く上げる　このようにして　彼は飲む

●「主」は「彼」です。「飲む」主体が「彼」という人称代名詞だからです。その「彼」が「王なる存在」として「頭を高く上げる」のです。
問題は「ミンナハル・バッデレフ・イシュテ」(מִנַּחַל בַּדֶּרֶךְ יִשְׁתֶּה)を「流れから水を飲まれる」と訳されていることです。

8. 7節の解釈 ②

主は道の傍らで　流れから水を飲まれる。
こうして　その頭を高く上げられる。

ローシュ	ヤーリーム	アル・ケーン	イシュテ	バッデレフ	ミンナハル
עַל־כֵּן יָרִים רֹאשׁ			יִשְׁתֶּה	בַּדֶּרֶךְ	מִנַּחַל
頭を	(彼)は高く上げる	このようにして	彼は(水を)飲む	道の傍らで	流れから

●「ミンナハル・バデレフ　イシュテ」(מִנַּחַל בַּדֶּרֶךְ) を以下のように、
「イシュテ」(יִשְׁתֶּה)の「(彼は)水を飲む」➡「(彼は)分かち合う」
「ミンナハル」(מִנַּחַל)を「流れから」➡「嗣業から(嗣業を)」
「バッデレフ」(בַּדֶּרֶךְ)を「道の傍らで」➡「(主の計画の)旅路で(得た)」
●つまり、7節を「主の旅路で得た嗣業を、彼は分かち合う」と訳せるなら、
「かくして、彼(王)の頭は高く上げられる」と賛美することになるのです。

8. 7節の解釈 ③

主は道の傍らで　流れから水を飲まれる。
こうして　その頭を高く上げられる。

主の旅路で得た嗣業を、彼は分かち合う。
かくして、彼の頭は高く上げられる

今日のまとめ

●詩篇110篇は短いメシア詩篇です。その構造は二つ分けられます。

A・・1～４節

B・・5～７節

●この詩篇は、イェシュアがパリサイ人・律法学者との論争で直接に、この詩篇110篇を引用しています(マタイ22:44, マルコ12:36, ルカ22:42～43)。あるいは、新約に間接に引用されています(マルコ16:19/使徒5:31/ロマ8:34/Ｉコリ15:24～/エペ1:20/コロ3:1/ヘブル1:3, 8:1, 10:12～13,12:2/Ｉペテ3:22/黙示3:21)。つまり、初代教会はこの詩篇を復活して、父なる神の右に上げられた昇天・着座されたキリストの栄光と勝利を描く証明として用いられたのです。